日本史学コース案内

――大学院進学のためのガイダンス――

2026 年 11 月

Ⅰ　日本史学コース概要

日本史学コースでは、日本列島上に生きた人々の生活と社会および諸外国との関係全般にわたる歴史的展開のあとを、実証的に考究していきます。また、日本の歴史に関する専門の研究者（職業的研究者）を目指す人、文書館・博物館・民俗資料館などへの勤務を志す人、教員として歴史教育に関わりたいと考える人などのため、高度の知識や歴史理論および史（資）料操作に関する緻密な技術を修得することを目標としています。

Ⅱ　教員紹介

日本史の各時代・各分野に対応できるよう専任教員を配置しています。古代２人、中世２人、近世２人、近現代３人という豊富なスタッフを擁し、政治史、社会史、運動史から、対外関係史、文化史などまで、幅広い領域にわたってカバー可能な陣容となっています。

古代史

田中（たなか） 史生（ふみお）

［専攻分野］古代史（国際交流史）

［主　　著］『日本古代国家の民族支配と渡来人』（校倉書房、1997 年）
『倭国と渡来人』（吉川弘文館、2005 年）
『国際交易と古代日本』（吉川弘文館、2012 年）
『国際交易の古代列島』（株式会社 KADOKAWA、2016 年）
『越境の古代史』（株式会社 KADOKAWA、2017 年）

［現在関心を持っているテーマ］

列島各地の地域的な国際交流と、渡来人や交易者、文字や仏教など、越境する人や文化の研究を通して、列島の古代社会の歴史的多元性や多様性、国際性の解明を進めている。

川尻（かわじり） 秋生（あきお）

［専攻分野］古代史（特に平安期）

［主　　著］『古代東国史の基礎的研究』（塙書房、2003 年）
『日本古代の格と資財帳』（吉川弘文館、2003 年）
『戦争の日本史４　平将門の乱』（吉川弘文館、2007 年）
『全集日本の歴史４　揺れ動く貴族社会』（小学館、2008 年）
『シリーズ日本古代史５　平安京遷都』（岩波書店、2011 年）
『古代の東国２　坂東の成立　飛鳥・奈良時代』（吉川弘文館、2017 年）
吉村武彦・川尻秋生・松木武彦編『シリーズ地域の古代日本』（株式会社 KADOKAWA、2022・3 年）

［現在関心を持っているテーマ］

東国を中心とした地域史。日本と中国の比較による法律の歴史。寺院を中心とした仏教史。歴史の機微を大切にしながら日本の古代史を考えていきたいと考えている。

中世史

下村（しもむら） 周太郎（しゅうたろう）（2027 年度特別研究期間）

［専攻分野］中世史（特に前期）

［主　　著］「「幕府」概念と武家政権史」（『史海』62、2015 年）
「中世における樹木観・竹木観の展開」（『木材の中世』高志書院、2015 年）
「法と公文書」（『日本「文」学史 第二冊』勉誠出版、2017 年）
「頼朝と征夷大将軍任官」（『征夷大将軍研究の最前線』洋泉社、2018 年）
「九条兼実における天文密奏と天変祈祷」（『変革期の社会と九条兼実』勉誠出版、2018 年）
「大和国栄山寺領墓山と「栄山寺々中幷山林絵図」 ―小島村との関係を中心に―」（『よみがえる荘園』勉誠出版、2019 年）

［現在関心を持っているテーマ］

イデオロギー、徳政、自他認識、歴史意識、心性、概念史、街道、戦争、非常時、天変地異、水辺環境、樹木観、生命観などをキーワードに、中世の国家論・社会論について研究しています。

久保（くぼ） 健一郎（けんいちろう）

［専攻分野］中世史（特に後期）

［主　　著］『戦国大名と公儀』（校倉書房、2001 年）
『戦国時代戦争経済論』（校倉書房、2015 年）
『戦国大名の兵粮事情』（吉川弘文館、2015 年）
『中近世移行期の公儀と武家権力』（同成社、2017 年）
『列島の戦国史 1　享徳の乱と戦国時代』（吉川弘文館、2020 年）

［現在関心を持っているテーマ］

戦国大名における公儀の研究から出発し、中世後期の戦争と経済をめぐる人間や社会の動向に関心を持っている。

近世史

谷口（たにぐち） 眞子（しんこ）

［専攻分野］近世史

［主　　著］『近世社会と法規範――名誉・身分・実力行使』（吉川弘文館、2005 年）
『赤穂浪士の実像』（吉川弘文館、2006 年）
『武士道考――喧嘩・敵討・無礼討ち』（角川学芸出版、2007 年）
『赤穂浪士と吉良邸討入り』（吉川弘文館、2013 年）
河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則・谷口眞子・宗像和重編『日本「文」学史　第二冊　「文」と人びと――継承と断絶』（勉誠出版、2017 年）

『葉隠〈武士道〉の史的研究』（吉川弘文館、2022 年）

［現在関心を持っているテーマ］

恩赦、殉死、武士道論と兵学、赤穂事件と「忠臣蔵」文化の形成・受容のほか、軍事史的観点から名誉・忠誠・愛国心を日本史・東洋史・西洋史で比較する試み、さらに 19 世紀の軍人と書物の交流を通じた軍事的学知の交錯についても研究をはじめている。

伊川 健二（いがわ けんじ）

［専攻分野］近世史

［主　　著］『大航海時代の東アジア――日欧通交の歴史的前提』（吉川弘文館、2007 年）

『イタリア史料の収集および整理による中近世移行期日本史像の再検討』（2013 年、科学研究費若手研究(B)研究代表者伊川健二）

『世界史の中の天正遣欧使節』（吉川弘文館、2017 年）

［現在関心を持っているテーマ］

中世から近世にかけての知的交流の歴史にとくに関心をもっています。貿易や使節の交換などの直接的な人々の交流のほかに、境界をまたいで間接的に伝達された情報の量と多様性を追求したいと思っています。

近現代史

真辺 将之（まなべ まさゆき）

［専攻分野］近代史（明治期～／思想史・政治史）

［主　　著］『西村茂樹研究』（思文閣出版、2009 年）

『東京専門学校の研究』（早稲田大学出版部、2010 年）

『大隈重信――民意と統治の相克』（中央公論新社、2017 年）

『猫が歩いた近現代――化け猫が家族になるまで』（吉川弘文館、2021 年）

［現在関心を持っているテーマ］

もともとは、明治政府の取った「欧化主義」と呼ばれる思想・政治潮流への反発の動きを研究していたが、近年は、近代日本の政党認識に関する研究や大隈重信研究、早稲田大学史研究なども進めている。

鶴見 太郎（つるみ たろう）

［専攻分野］近代史（昭和期～／思想・文化史）

［主　　著］『柳田国男とその弟子たち』（人文書院、1998 年）

『橋浦泰雄伝』（晶文社、2000 年）

『民俗学の熱き日々』（中公新書、2004 年）

『座談の思想』（新潮社、2013 年）

『リーディングス戦後日本の思想水脈４　日常からの挑戦』（岩波書店、2016 年）

『柳田国男　―感じたるまゝ―』（ミネルヴァ書房、2019 年）

［現在関心を持っているテーマ］
柳田民俗学とその支持者を分析対象としながら、戦前・戦中期の国民の生活・思想・文化を、民俗学・文化人類学・文学など多角的視点から研究。

藤野（ふじの） 裕子（ゆうこ）（2026 年度特別研究期間）

［専攻分野］近現代史（明治～戦後／民衆史・社会史）
［主　　著］『都市と暴動の民衆史 ―東京・1905-1923 年―』（有志舎、2015 年）
『民衆暴力 ―一揆・暴動・虐殺の日本近代―』（中央公論新社、2020 年）
［現在関心を持っているテーマ］
近代日本の都市暴動を中心に民衆史・社会史を研究してきた。近年では、ジェンダー史・セクシュアリティ史についても研究を進めている。

Ⅲ　大学院での活動

１．授業
学部での授業とは異なり、大学院では史料講読など演習が中心となります。「講義を聴く」ばかりではなく、自ら積極的に「問い」を発し「答え」を探すことが重要となります。

２．ゼミ活動
大学院では、古代・中世・近世・近現代に分かれ、ゼミを中心に研究活動を進めていきます。例えば近世を専攻しながらも中世や近現代のゼミに出席するように、専攻の異なるゼミに参加することも可能です。
具体的なゼミの活動や雰囲気については、院生の方に紹介してもらいます。

３．研究会・学会
それぞれの研究分野ごとに多くの研究会や学会が存在します。早稲田大学でおこなわれているものも多く、院生のみなさんは、自分の研究分野に関係する研究会や学会についての情報を集め、積極的に参加することで研究を深めています。

４．修士論文・博士論
最近提出された主な修士論文・博士論文のタイトルを紹介しておきます。

【修士論文】（2020 年度以降）
古代史
・律令国家の地方行政と「村」（2020）
・『令義解』成立の歴史的意義と法意識の変遷（2020）
・部民の性質変化について（2020）
・木簡から見る古代の地方支配（2020）

・次侍従の再検討（2020）
・平安中後期における記録と御幸・参詣（2021）
・平安時代の秦氏と松尾社（2021）
・宋海商と東アジア海域（2021）
・大宰府と西海道（2022）
・尾張国における古代氏族の地域的展開（2022）
・平安時代前期を中心とした地方出身の中央官人（2023）
・平安後期における宇佐八幡宮と地域社会（2024）

中世史

・中世前期の法意識について（2020）
・戦国大名上杉氏の権力構造（2021）
・「関ヶ原合戦」像の形成（2021）
・若狭国太良荘における荘官と在地社会（2022）
・戦国大名領国周縁部の諸階層と大名の関係（2022）
・戦国大名武田氏領における法（2022）
・十五・十六世紀の土倉と室町幕府（2022）
・中近世移行期における宗教的都鄙関係変遷の検討（2023）
・南北朝期の戦争と初期室町幕府東国支配の展開（2023）
・日本中世における狩猟と開発（2024）
・十三－十五世紀における「神訴」と「強訴」（2024）
・戦国大名北条氏による「撫民」と寺社再興について（2024）
・室町幕府将軍側近の研究（2025）

近世史

・近世日本の書物文化における民衆の〈古代〉認識（2020）
・楫取素彦の教育思想と教育政策（2021）
・対馬藩における朝鮮政策の転換（2021）
・幕末期徳川政権による畿内防衛の構想と展開（2022）
・江戸町名主の制度的展開（2023）
・近世後期の海防論とナショナリズム（2023）
・幕末期佐賀藩の情報活動（2023）
・近世前期の武家における「家」意識（2023）
・近世中後期の大名家における小姓の役割の分析（2023）
・近世初期におけるキリスト教の布教と拡大（2024）
・近世初期におけるフランシスコ会布教（2025）
・近世後期における西洋内科の受容（2025）

近現代史

・近代日本演劇検閲研究（2020）

・植民地樺太の地方都市（2020）
・昭和戦前・戦中期における落語の様相（2021）
・原敬内閣高等教育拡充をめぐる政治過程（2021）
・明治期の飴売りと朝鮮人イメージ（2021）
・近代化における幽霊（2021）
・近代日本における西洋音楽（2022）
・日本の植民地統治と台湾地域社会（2022）
・『点字早稲田中学講義』という「紙上の学校」（2023）
・地方政治の展開からみた公営競技存廃問題（2024）
・戦前日本の不良少年（2024）
・明治後期における学生生徒の堕落と教化（2025）
・旧制高等学校入試における学力観の再検討（2025）

【博士論文（課程による）】
・近代日本都市暴動の民衆史的研究
・19 世紀における将軍権威の変質と再構築――日光社参の歴史的位置
・17 世紀徳川外交の研究
・19 世紀半ばにおける蝦夷地の内包化とアイヌ統治――箱館奉行所の統治と仁政イデオロギー
・内大臣の研究――明治憲法体制と「常侍輔弼」
・中世後期の荘園経営と惣村の実態
・「院外青年」運動の研究――日露戦後～第一次大戦期における若者と政治との関係史
・日本近代におけるアカデミズム史学の形成
・鎌倉府の支配体制と権力構造
・戦間期日本の炭鉱業と朝鮮人鉱夫 ―福岡県筑豊炭田を中心として―
・居留地時代（一八五九～一八九九年）における「開国日本」の実態と「外国人」 ―在留清国人の地位、管理問題を中心に―
・日本古代施薬院の研究
・中世荘園制下における在地社会の研究
・日本古代天皇の変質 ―中世的天皇の形成過程―
・江戸幕府の民衆支配と地域社会 ―関東取締行政からみる社会変容―
・近代日本官僚制の展開と文部省の変容 ―文部官僚の任用・登用と専門性―
・「府県」成立と日本近代国家の形成
・律令国家の地方支配と国郡行政 ―地方行政監察使・国司を中心に―

【博士論文（課程によらない）】
・秋田藩における中期藩政改革の展開と地域変容
・報徳仕法と近世社会――近世社会の成熟と危機対応
・「元老制」変容過程の研究――「元老待遇」の形成と「一人元老制」への展開
・古代信濃の地域社会構造
・日本古代国家の祈雨儀礼と災害認識

・増野悦興研究 ―あるキリスト者・教育者の生涯と思想―
・中世荘園における収取秩序と景観に関する研究
・日本古代における手工業生産の国家的編成に関する研究

Ⅳ　入試について

1．一般入学試験日程（修士課程）　（※本年度の一般入学試験は終了しました）

・出願期間：2026 年 7 月

※出願資格によって出願期間が異なります。文学研究科ホームページで「入試要項」を必ず確認して、出願してください（2028 年度入学試験要項は 2027 年 6 月頃に公開予定です）。

・第 1 次試験：2026 年 9 月 14 日（月）**（注：実施済）**
・第 2 次試験：2026 年 10 月 4 日（日）**（注：実施済）**
・最終合格発表日： 2026 年 10 月 8 日（木）10:00～

2．論文特別選抜入学試験

・2027 年度の入学試験要項は 2026 年 7 月下旬に文学研究科事務所ホームページで公開予定です。次ページの資料を参照してください。

・出願期間：　2026 年 12 月 1 日（火）～10 日（木）
・第 1 次試験　書類審査　→　合格発表 2027 年 1 月 21 日（木）10:00～
・第 2 次試験　2027 年 1 月 30 日（土）面接（Web 会議システム（Zoom）を使用）
・最終合格発表　2027 年 2 月 1 日（月）17:00～

3．入試問題

過去に出題された問題については、文学学術院事務所で閲覧（コピー不可）することができますので、入試対策にご利用ください（過去 3 年分）。また、入学センターのホームページでも、著作権に係らない一部の問題を閲覧することができます。

4．三者協

日本史・日本史学コースでは、教員・院生・学部生が集まった勉強会を開催しています。古代・中世・近世・近現代の時代ごとに分かれ、史料の読み方などを丁寧に学ぶことができます。過去の入試問題についての情報交換も行っています。アットホームな雰囲気ですので、関心のある方は是非とも参加しみてください。

Ⅴ　進路について

進路については、研究者だけでなく、中学校や高校の教員、公務員、あるいは一般企業等に就職される方も少なくありません。

以上